

平成30年度 研究拠点形成事業(A. 先端拠点形成型)
中間評価資料(進捗状況報告書)

1. 概要

研究交流課題名 (和文)	日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成		
日本側拠点機関名	神戸大学		
コーディネーター 所属部局・職名・氏名	国際文化学研究科・教授・坂井一成		
相手国側	国名	拠点機関名	コーディネーター所属部局・職名・氏名
	ドイツ	ヒルデスハイム 大学	Department of Cultural Policy, Professor, SCHNEIDER, Wolfgang
	ベルギー	ルーヴェン大学	Leuven Centre for Global Governance Studies, Senior Researcher, RAUBE, Kolja
	イタリア	ナポリ東洋大学	Department for Asian, African and Mediterranean Studies, Associate Professor, LANNA, Noemi
	フランス	パリ・ナンテール 大学	Faculty of Social Sciences, Associate Professor, FERRAGU, Gilles
	ベトナム	ベトナム国家大学 ホーチミン市校	University of Social Sciences and Humanities, Vice Dean of the Faculty of Japanese Studies, NGUYEN, Thu Hong
	タイ	マヒドン大学	Mahidol Migration Center, Institute for Population and Social Research, Associate Professor, PUNPUING, Sureporn
	台湾	国立政治大学	Humanities Research Center, Professor, CHOU, Whei-min
	韓国	仁荷大学	Center for Global Multicultural Education, Professor, CHONG, Sang-u

2. 研究交流目標

申請時に計画した目標と現時点における達成度について記入してください。

○申請時の研究交流目標

中東情勢の緊迫に伴い、年初以来 EU に流入した移民・難民は 53 万人を超えたとされている。混乱に乗じた不法移民の増加だけでなく、移民の急増が EU 社会に与える様々な影響が今や議論的になっている。

現代社会は、日本や EU (欧州連合) に典型的に見られるように、互いに密接に連動する 3 つの急速な変動に直面している。すなわち、《移住の活発化》によって受入社会の社会的・政治的・経済的不安定が惹き起され、《多文化化》の進行によって地域コミュニティが分断される一方、多文化化が福祉的再分配に必要な国民の連帯感を浸食し《福祉国家の揺らぎ》を招きつつある、という危惧である。これら 3 つの社会的変動は、